

第9回植村直己冒険賞授賞式

女性世界最高齢でヒマラヤ・ローツェに登頂

渡邊玉枝さんに贈呈

植村直己冒険賞は、郷土が生んだ世界的な冒険家・植村直己さんの優れた人となりや後世に継承するために平成8年に創設しました。以後、毎年、自然を相手に創造的な勇氣ある行動をした人（団体）に本賞を贈っています。

6月11日、日高文化体育館に、10人目の受賞者となった渡邊玉枝さん（66歳、山梨県在住）を招き、授賞式を行いました。渡邊さんは、昨年、女性として世界最高齢でヒマラヤ・ローツェ（8516メートル）を踏破し、8千メートル峰5座登頂に成功しました。授賞式では、約800人の観衆が見守る中、市長からメダルや副賞を贈呈するとともに、記念講演会や府中小学校児童による植村直己物語の演奏などを行い、渡邊さんの偉業を称えました。



無事、授賞式を終えて、ホッとした様子で会場を訪れた人たちに笑顔で握手をする渡邊さん

自然にもっとふれて

（渡邊さん記念講演会より）

退職したらヒマラヤを眺めに行きたいなと思っていましたが、仕事を持っていた関係上、海外への山登りは諦めていました。しかし、知り合いから誘いがあり、登れなくてもともと、自分がどれくらいのところまで登れるのか挑戦したい」と思い海外の山に行くようになりました。ロー

ツェについても、トレーニング不足で不安だったので、8千メートル峰4つでは切りが悪いということで仲間からの誘いを受けることにしました。こうした様々な人の幸運な出会いによって、世界の最高峰エベレストやローツェなどに登ることができました。

私がこれまで山登りで最も苦労したことは、休暇を取ることでした。自分のことで周囲に迷惑をかけることが非常に心苦しく、職場の仲間にも山登りのことをいつ言おうかよく悩みました。しかし、いつも職場の同僚が快く応援して支えてくれました。

近年、自然災害が多く発生していますが、一人ひとりが自然環境の大切さを考えることが必要です。そのためにも皆さん自然の中に入っている」と体験してほしいと思います。最近、中高年齢の登山者も増えていきます。皆さんも健康づくりのために、体力や技術に応じた山を選んで、但馬の山々の恵まれた自然にもっとふれてみてください。

選考評

女性や高齢者に

大きな希望を



石毛直道さん
（国立民族学博物館名誉教授）

渡邊さんは、60歳を過ぎてから輝かしい記録を達成しました。別に意識してではなく、自然の成り行きの中で記録は生まれました。

渡邊さんは、プロの登山家ではなく、仕事を持ちながら山登りを楽しんできた普通の人です。公募隊に頼らず、自分の給料を貯めて自分たちの仲間と山登りをしてきました。

渡邊さんのこうした冒険は、女性や高齢者に大きな希望を与えました。

冒険は、特別な人、体力のある若い人また男性だけが行うものではありません。普通の人にもできることです。皆さんの中から第2の渡邊さんが出てきてくれることを願います。